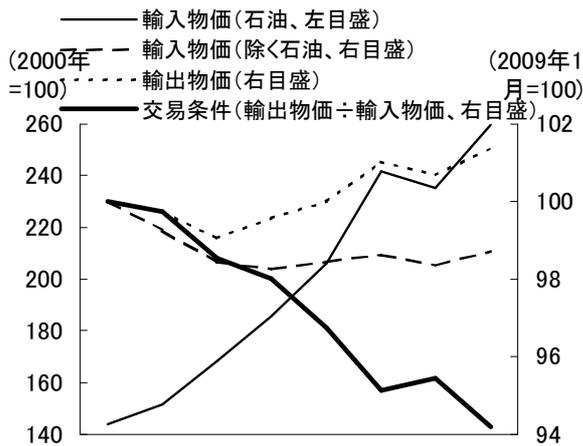


## 米国経済でコストインフレと製品デフレが同時進行 ～ 所得流出・マージン縮小で景気下押し圧力増大へ ～

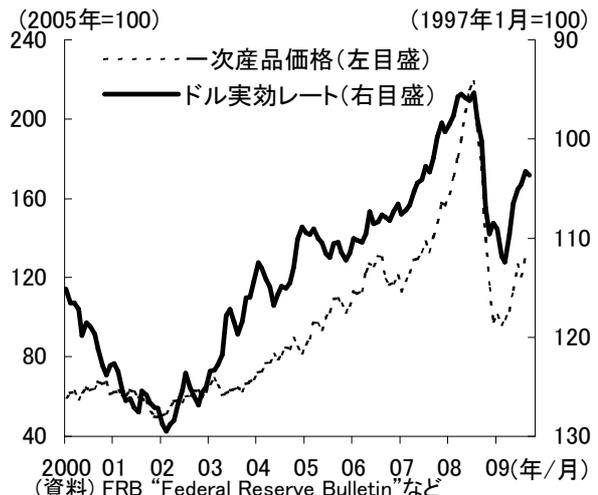
- (1) 本年入り後、米国輸入価格は燃料を中心に上昇（図表1）。一方、輸出価格では小幅な上昇で推移。その結果、交易条件が悪化し、国内所得が流出へ。
- (2) 主因はドル安の進行。2000年代に入りドル信認度合いと一次産品価格はほぼ連動して推移（図表2）。さらに、このところのドル安進行の根底には強力な経済・金融対策に伴う流動性の大幅な供給増。米国議会予算局予測によれば、本年度米国財政赤字はGDP比13%と未曾有の悪化に陥る見通し。
- (3) 現代社会・経済の基盤である原油動向を中期的視点からみると、新興国をはじめとする途上国の着実な経済成長によって一段の需要増が見込まれるなか、米国エネルギー省によれば2010年代を通じて世界の産油量は頭打ちで推移（図表3）。資源制約が視野に。
- (4) 一方、最終財価格をみると、原材料対比でみた相対的な価格下落傾向に拡大の兆し（図表4）。根底には新興国を含めた世界的な供給過剰。米国の過剰消費体質改善が供給過剰の構図に拍車。
- (5) いずれも構造変化に根差す側面が強いだけに、コストインフレと製品デフレが、今後短期間に終息する展開は期待薄。所得流出とマージン縮小が景気下押しに作用する懸念大。

（図表1）米国輸出入物価の推移



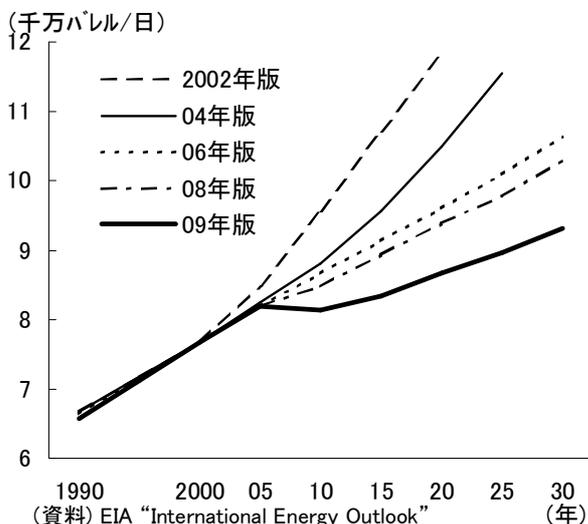
（資料）US Dept of Labor “Monthly Labor Review”（2009年/月）

（図表2）一次産品価格とドル実効レートの推移



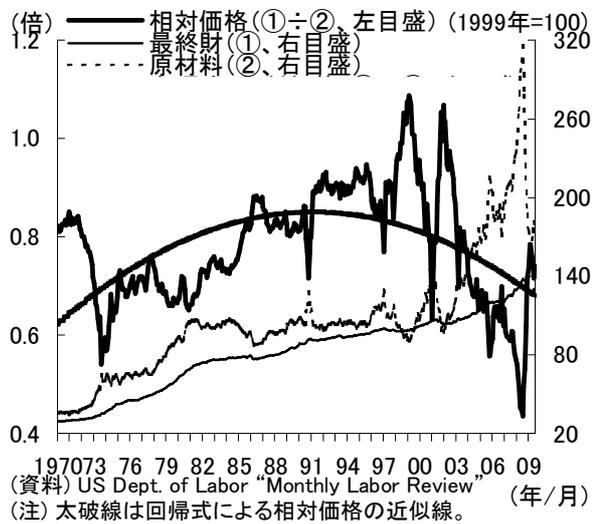
（資料）FRB “Federal Reserve Bulletin”など

（図表3）米国エネルギー省の世界産油量展望



（資料）EIA “International Energy Outlook”（年）

（図表4）米国企業物価の推移



（資料）US Dept. of Labor “Monthly Labor Review”（年/月）  
（注）太破線は回帰式による相対価格の近似線。